



新庁舎の実施設計概要を お知らせします



このたび、平成28年10月に完了した新庁舎建設基本設計を基に、より詳細な図面などを作成する実施設計が完了しました。
本号では、実施設計の概要や今後のスケジュールなどについてお知らせします。
問合せは、政策課庁舎建設担当(335・4129)へ。

外観イメージパース(敷地北東側から)

新庁舎の基本的な考え方

「市民に親しまれ、府中らしさを受け継ぐまちづくりの拠点となる庁舎」を基本理念として、次の4つの基本方針をもとに設計を行いました。

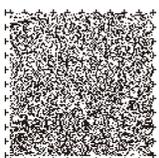
- 1 市民に開かれ、人々の多彩な活動が生まれる庁舎
- 2 災害時に庁舎機能を確保できる庁舎 環境負荷低減に配慮した庁舎
- 3 時代やニーズの変化に対応できるフレキシブルな庁舎
- 4 府中の魅力を象徴する、まち、自然と一体になった庁舎

新庁舎は、現在の敷地を拡張して現在地で建替えを行います。府中駅と府中本町駅のにぎわいをつなぐ場所にあり、用がなくても立ち寄れる、常に人の活気にあふれた「現代の宿場町」のような庁舎をコンセプトとしています。

新庁舎は、庁舎の主たる機能を担う「おもや」と、庁舎機能を補完し、市民協働を支える「はなれ」で構成します。また、「おもや」と「はなれ」をつなぎ、市民の多彩な活動を支える場として「通り庭」を計画し、これら3つの空間が絡み合い、補い合うことで、市役所としての機能性を十分に発揮しながらも市民に開かれ、自然と一体になった、これからの時代を象徴する庁舎となります。

「おもや」の低層階には、来庁者の利用が多い部署を集約配置し、サービスを提供しやすい施設とします。「はなれ」の低層階には、多彩な市民活動や市民協働を支える多目的スペース・ラウンジを計画します。

また、「通り庭」に面して庁舎機能や市民協働の場を設け、市役所に訪れた人はもとより「通り庭」を散歩道にする人など、誰もが気軽に訪れやすく、多様な活動が生まれる開かれた庁舎を計画します。



府中市庁舎周辺図



鳥瞰イメージパース(敷地南西側から)



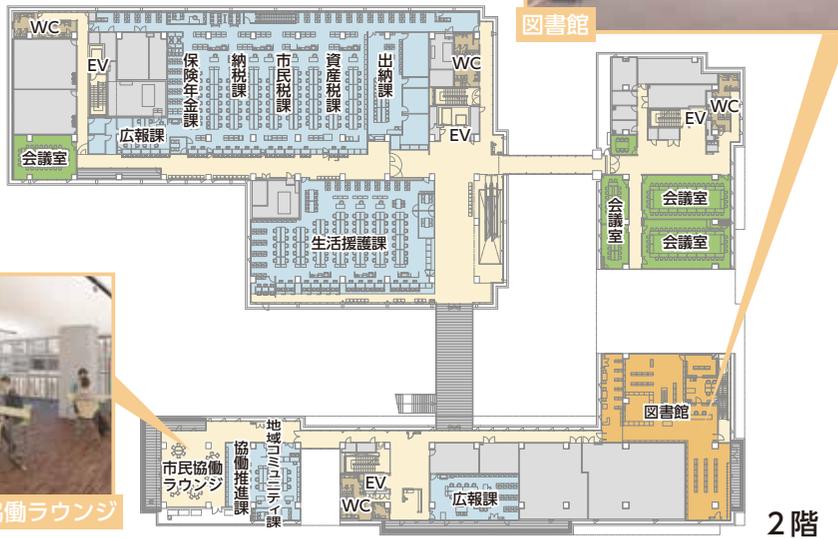
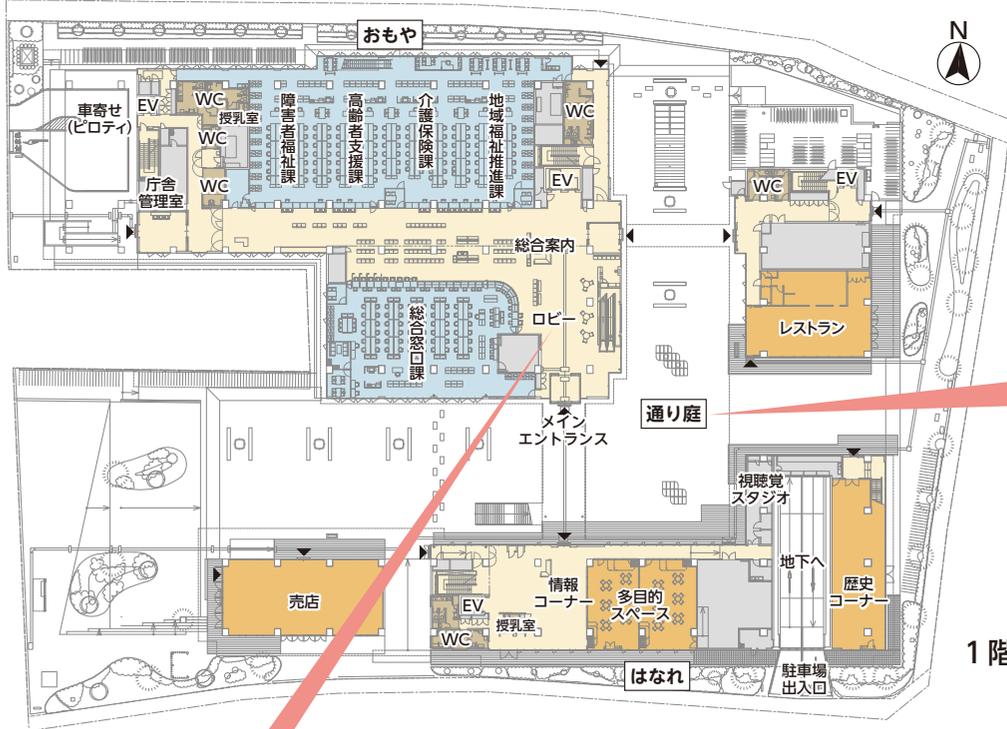
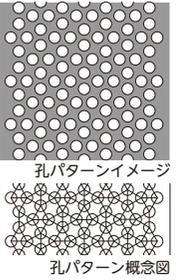
外観イメージパース(府中街道側から通り庭を見る)

外装計画・内装計画

- ・建物全体を穏やかに包む有孔パネルは、環境負荷低減やプライバシーへの配慮にも有効です。「おもや」を横張り、「はなれ」を縦張りとしながら、共に片流れの折板形状とします。
- ・「通り庭」や外構の床にはレンガタイルを用います。街路のような舗装を敷地内に引き込むことで、大國魂神社やけやき並木と連続性を持たせます。

●有孔パネルについて

外装材料には、有孔パネルという「高耐食溶融亜鉛メッキ鋼板」に孔(あな)をあけた材料を使用します。孔パターンは、かつての宿場町や街道沿いにあふれていたであろう和柄を、正方形と正三角形のみを用いて現代的にデザインした「新しい和柄」をコンセプトとします。



- ・内装仕上げは、シンプルでメンテナンスが容易な素材を用います。執務室や待合、廊下などの床仕上げは将来の更新性を考慮してタイルカーペットを基本とし、外部と連続する「おもや」1階の待合ロビーは通り庭と同じレンガタイルを用い、耐水性・防汚性を確保します。
- ・「はなれ」低層部の廊下や多目的スペース、市民協働ラウンジの床にはフローリングを用い、木のぬくもりが感じられる空間とします。議会フロアや議場は、けやき並木など府中の豊かな自然を象徴する、木に包まれた空間とし、武蔵野の地に古くから根付くナラやクルミなどの樹種を選定します。

※記載されている部署名は、現時点における想定を参考に記載したものです。

サイン計画

- ・「誰にとっても分かりやすい」「建物とランドスケープとの融合」「可変性・更新性」の3つの考え方を基本とします。

●書体

視認性が良く、長い間駅などの公共空間で使用されてきた書体を使用します。漢字とかなのバランスが自然で読みやすく、更新時を考慮し汎用性のある書体です。

●ピクトグラム

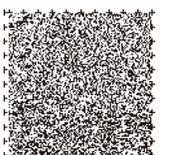
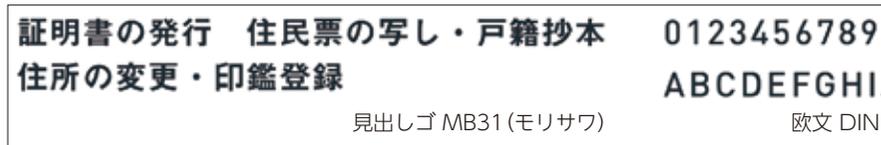
トイレやエレベーターなどの庁内設備には、視覚的に伝わりやすいピクトグラムを使用します。



JIS規格のピクトグラムの例

●色彩計画

新庁舎のサインには古色を使用します。建築物や工芸品などが長い年月を経る間に日光や雨風にさらされて変化し、年月を経て情緒が表れた美しい古色の様子は歴史ある府中市をイメージさせます。

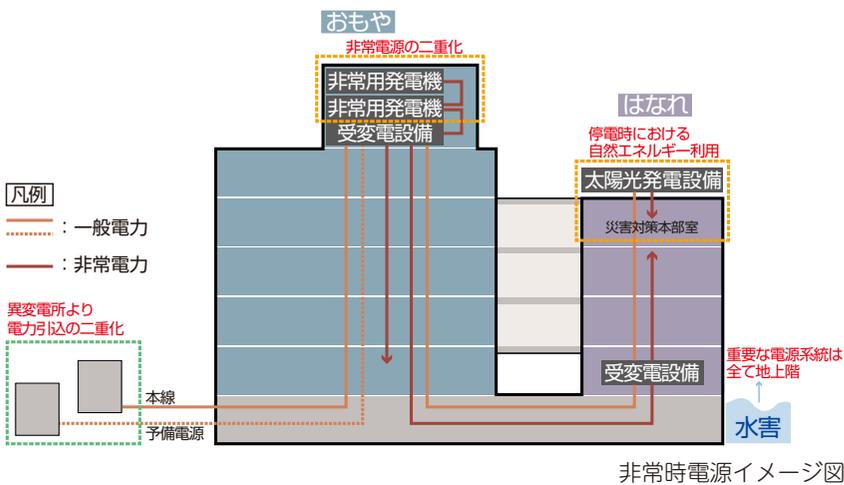


防災計画

- ・災害時に庁舎機能を確保し、BCP(事業継続計画)を支えるため、防災危機管理課と連携した災害対策本部の設置、必要な防災設備と自立性を備えたライフラインや救護活動支援スペースを確保します。
- ・十分な耐震性を備え、構造方式には最も信頼性の高い免震構造を採用します。

●災害時(停電時)における電源バックアップ計画

- ・信頼性の高い2か所の変電所から本線・予備電源の二回線引込を行い、電力の多重化を図ります。
- ・継続して3日間の稼働が可能な燃料を備蓄し、停電となった場合でも2台の非常用発電機により、庁舎内の災害対策の拠点となるエリアを中心に電力の供給を行います。
- ・太陽光発電設備は、通常時は一般電力系統への連携により、電気料金の削減に寄与しますが、停電時は災害対策本部室への電源供給に切り替えることが可能です。また、重要な電源系統は全て地上階に設置することにより、水害によるシステムダウンを未然に防ぎます。



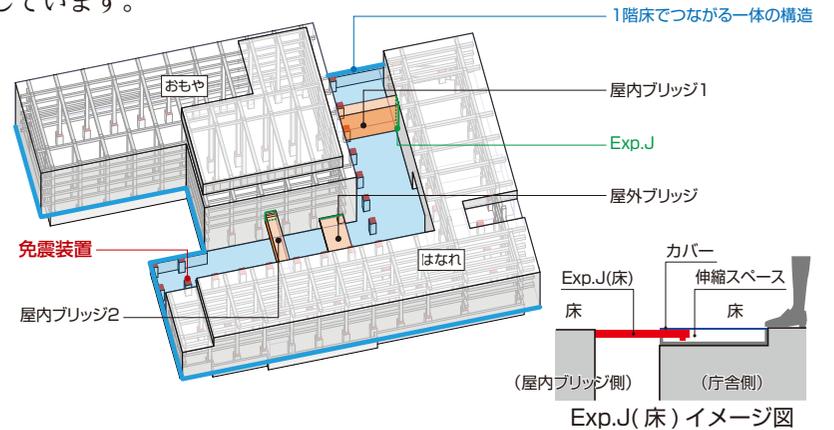
非常時電源イメージ図

●雨水・井水を活用した水源

上水、雑用水の2つの給水源を有効に利用した計画とします。雨水は「おもや」の屋根面より集水し、雨水流出抑制槽より必要量を移送した後、雑用水として利用します。また、省資源及び災害時の水源確保として、井水利用を採用し、通常時は上水、災害時は雑用水として利用します。

●「おもや」「はなれ」の構造構成

- ・「おもや」「はなれ」は1階の床でつながる1棟の構成で、地上階では屋外・屋内ブリッジにより各棟を接続しています。
- ・接続部分には、Exp.J(エキスパンションジョイント:伸縮継ぎ手)を設け、建築物を構造的に分離し、建築物相互が温度変化による膨張や収縮、振動周期の違い、地震による振動などによる影響を及ぼし合わない計画としています。



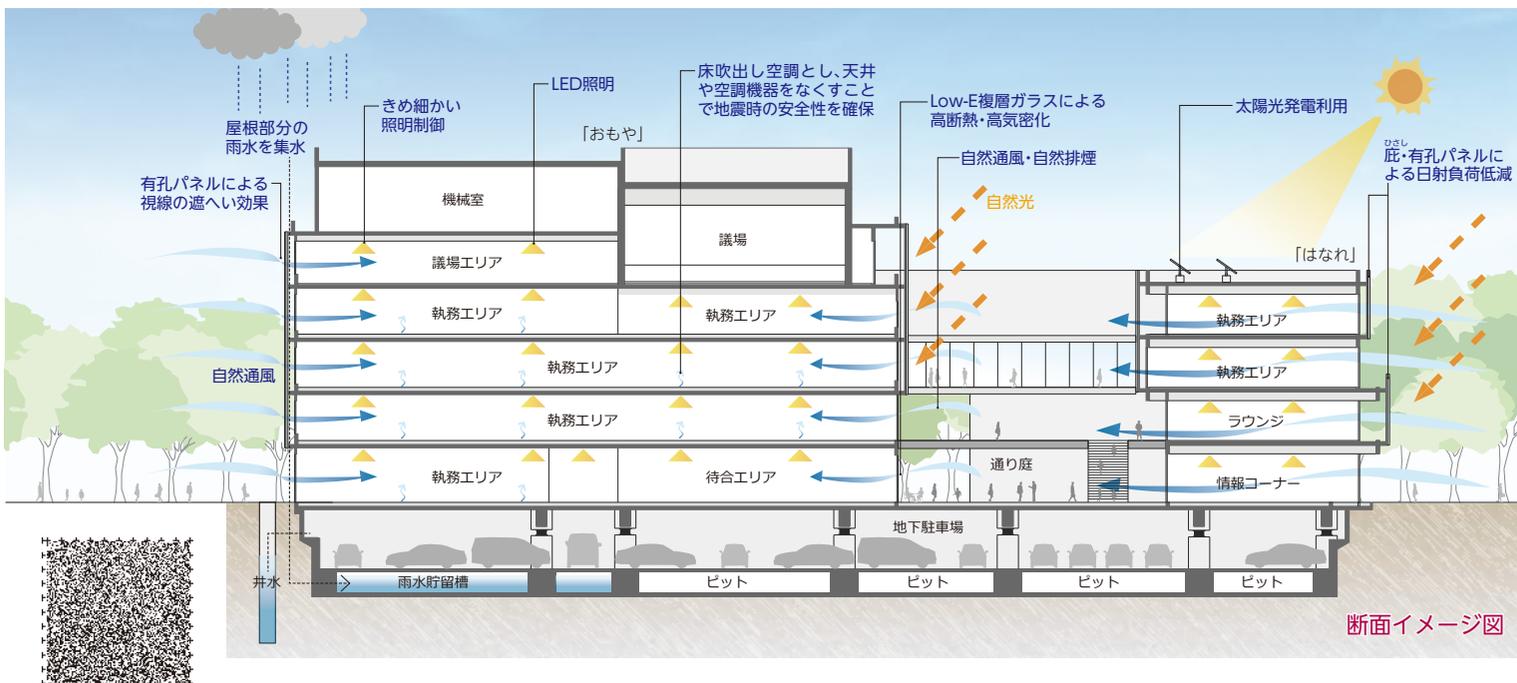
◆地震時の災害想定◆

時間経過	災害拠点として果たすべき機能	新庁舎に整備する設備・システム				
0日 発生時	安全確保/無被害	・免震構造 ・高耐震化 ・無天井化 ・家具転倒防止対策	・明確な避難動線計画 ・自家用発電機72時間運転 ・電源2系統受電 ・通信の多重化			
0~1日	災害対策本部設置/情報収集、発信/インフラ確保	災害対策本部機能/災害備蓄倉庫	飲料水確保	便所確保	電源確保/照明確保/情報発信	弱者対応スペースの確保
2~3日	各避難場所、関係機関、ネットワーク構築/安否情報発信/炊き出し支援/重要業務開始/応援者受入					
4~7日	物資受入れ、配分/交通復旧開始/インフラ復旧開始/ボランティア受入				燃料補給	受入れ先への移送
8~31日	通常業務開始/帰宅支援		給水車 水道復旧	汚水回収 下水道復旧	送電復旧	

環境計画

- ・周辺環境と調和し、環境負荷低減に配慮した庁舎とするとともに、長期に渡って維持管理しやすく更新性に優れた計画とします。また、CASBEE(※1)におけるSランクを取得できる計画とします。
- ・ライフサイクルコストの低減、再生可能エネルギーの利用、自然エネルギーの効率的な活用、高効率機器の採用を行います。

- 日常の維持管理が容易な設備計画とし、建物運用による更なる省エネルギーが図れる施設
 - ・設備システムの保守管理機能の向上、省エネルギーと快適性との調和を目的にBEMS(※2)を導入し、ライフサイクルコストの低減に努めます。
 - ・汎用性がある設備機器を採用し、設備の老朽化や機器更新に対応しやすい計画とします。
- 自然の恵みを有効に活用し、環境と共生した施設
 - ・中央熱源を採用するエリアは、外気取入量を可能な限り多くし、中間期・冬期の冷房需要にも外気冷房で対応できる計画とします。
 - ・雨水利用・井水利用を採用し、省資源化に努めます。



断面イメージ図

●省エネルギー・環境に配慮した施設

- ・自然エネルギーを活用した太陽光発電を導入し、環境に配慮します。
- ・LED照明主体の計画とし、照明制御、高効率な電気機器を導入して、消費電力削減に努めます。

※1: CASBEE: 設計における省エネルギーや環境負荷の少ない資機材の仕様による環境配慮、室内の快適性や景観配慮など建物の品質を総合的に評価するシステム
 ※2: BEMS: ITを活用して照明や空調を制御して最適なエネルギー管理を行うビル管理システム

ユニバーサルデザイン計画

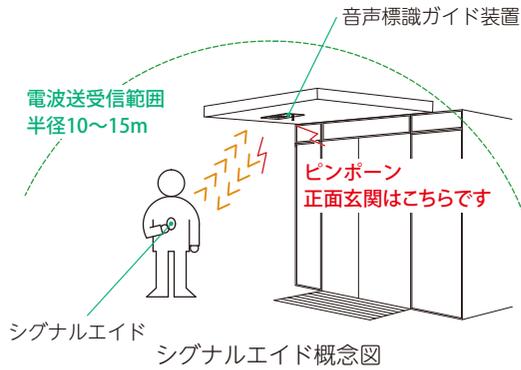
- 誰もが利用しやすく快適な庁舎とするため、「府中市ユニバーサルデザインの5つの視点」に基づいたユニバーサルデザインの実現を目指します。
- 障害者団体との対話を通じて、誘導ブロックや触知案内板の配置を定めるなど、より現実的に使いやすい施設計画とします。

●音声標識ガイドシステムの導入

出入口付近に音声標識ガイドを設置し、視覚障害者への建物案内を行います。出入口に近づくと手持ちのシグナルエイドから音響・音声案内を受け取ることができます。

●磁気ループの設置

聴覚障害者を支援するため、議場に磁気ループを設置します。音声磁場を発生させることで、補聴器や人工内耳を介して目的の音・声だけを正確に聴き取ることができます。



●授乳室・キッズコーナー

授乳室及びキッズコーナーを適所に設け、子ども連れの利用者が安心して利用できる計画とします。

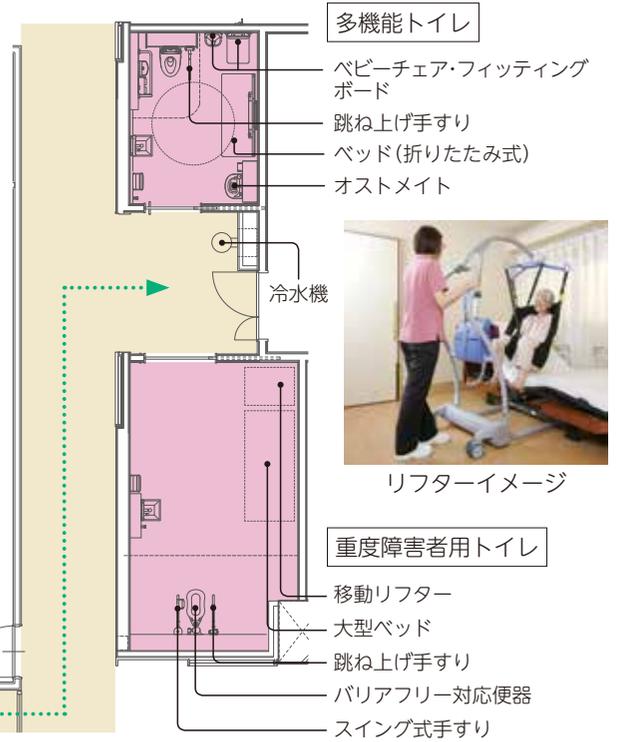
●多機能トイレ

各階に誰もが利用できる多機能トイレを設置します。1階には介助に必要な十分なスペース(約15m²)と大型ベッドやリフターを備えた、重度障害者用トイレを設置します。



西側エントランス

おもや1階多機能トイレ拡大図



全体工程

庁舎建設工事は全体で67か月を要する計画としています。この度スケジュールを見直し、平成33(2021)年度に着工、平成35(2023)年度に「おもや」完成、平成39(2027)年度に「はなれ」完成を予定しています。

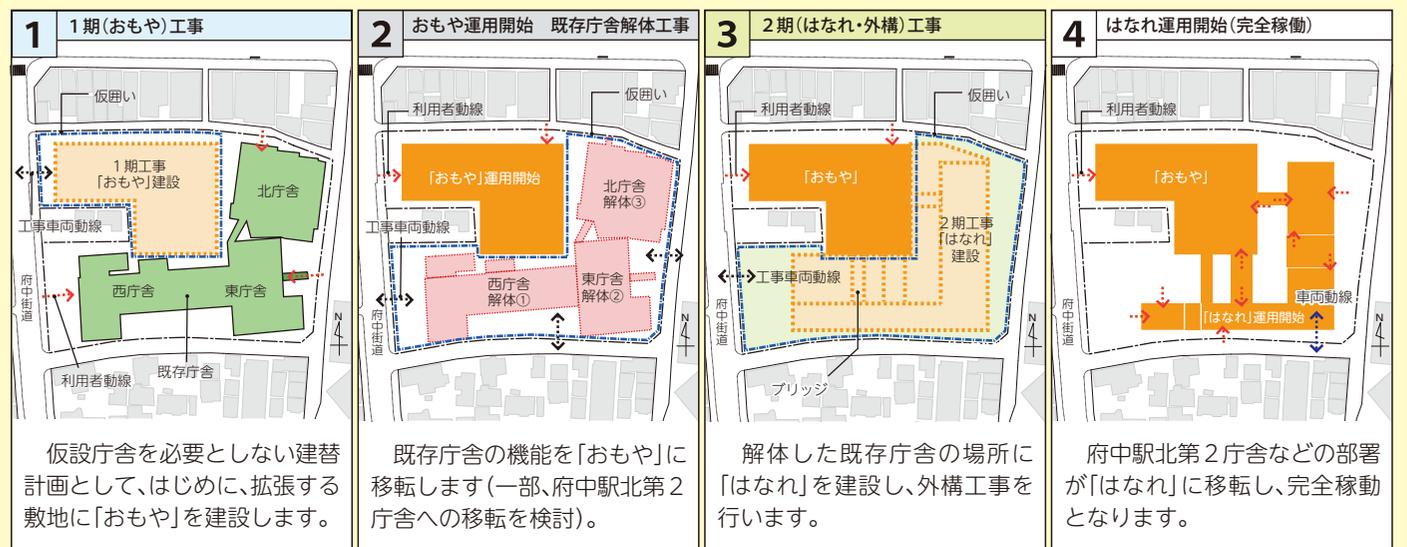
今後は、着工に向けて工事事業者選定の準備を行うとともに、埋蔵文化財発掘調査など敷地の整備を進めていきます。

◆今後のスケジュール◆

年度	平成33(2021)年度	平成34(2022)年度	平成35(2023)年度	平成36(2024)年度	平成37(2025)年度	平成38(2026)年度	平成39(2027)年度
工程		1期(おもや)工事 22か月	移転 3か月	既存庁舎解体工事 22か月		2期(はなれ)工事 20か月	移転 2か月
				おもやのみ稼働			完全稼働

※現段階における想定で、今後変更される場合があります。

◆建替計画◆



新庁舎の模型を展示します

実施設計の内容を基に模型を製作しました。市役所1階市民談話室において、模型を展示していますので、ぜひご覧ください。
※会場の都合により、一時的に展示しない場合もあります。

計画概要

計画地	府中市宮西町2丁目24番地(現在地)
敷地面積	11,906.21m ²
構造種別	免震構造(地下1階柱頭免震)・鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造
基礎形式	杭基礎
建築面積	6,362.68m ²
延床面積	32,584.20m ²
階数	「おもや」 地下1階 地上6階、「はなれ」 地下1階 地上4階
高さ	「おもや」 30.15m、「はなれ」 21.35m
駐車場等	駐車場(車)178台、(バイク)52台、駐輪場604台

概算事業費

基本計画で定めた概算事業費を実施設計完了時点で次のとおり見直しました。これらの財源は、基金と起債の活用を基本とし、財政負担を平準化することで単年度の影響を軽減し、他の事業に影響を与えないよう取組んでまいります。

建設工事費	173.7億円(解体工事費含む)
移転費	2.1億円
設計費等	4.8億円
土地買収関連費	26.0億円
合計	206.6億円

